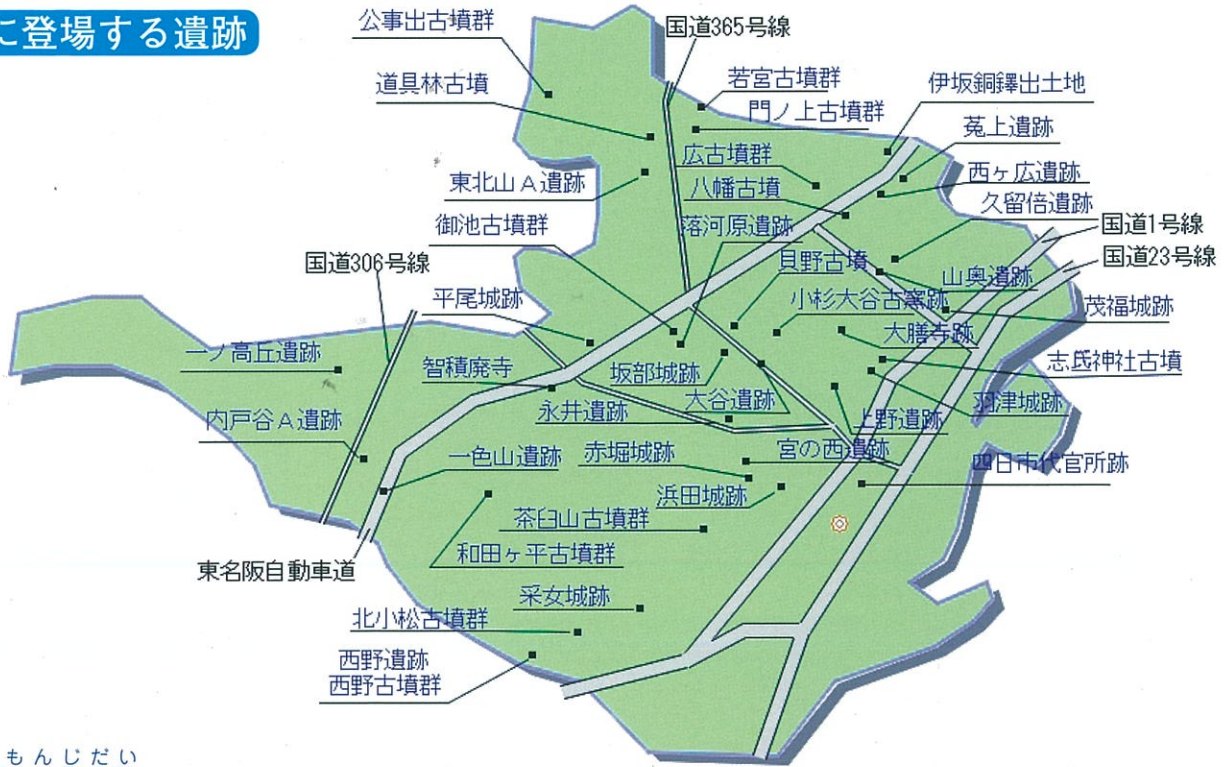


# 遺跡が語る 四日市市の歴史

四日市市教育委員会

四日市市には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が約580ヶ所確認されています。そのうち、60あまりの遺跡の発掘調査が行われ、四日市市の昔の様子が徐々に分かってきています。主な遺跡の発掘調査をもとに四日市市の歴史をまとめてみました。

## 本書に登場する遺跡



## 縄文時代

四日市市の縄文遺跡は、朝明川や内部川及びその支流に沿った内陸部の丘陵上にその多くが分布していますが、発掘調査はほとんど行われていないため、この時代の様子はよく分かっていません。しかし、有舌尖頭器（投げやりの先）をはじめ各種の石器などが見つかったり、西野遺跡（南小松町）の発掘調査では、県内でも17の遺跡からしか見つからない土器棺墓が見つかったりしています。



土器棺墓（西野遺跡）

### 有舌尖頭器



内戸谷A遺跡  
(美里町・水沢町)



東北山A遺跡  
(上海老町)

### いろいろな石器



一ノ高丘遺跡（桜町）



一色山遺跡（堂ヶ山町）

# 弥生時代

弥生時代は、一般的に前・中・後期に区分されます。四日市市の弥生遺跡は、平野や河川をのぞむ丘陵地に多く分布しています。

現在四日市市で見つかった最も古い弥生時代の遺跡は、前期の大谷遺跡（生桑町・東坂部町）や永井遺跡（尾平町）です。平野を見下ろす台地上に位置し、周囲に堀を巡らせた環濠集落を形成していたようです。

中期には、朝明川の北に大きなムラがつけられました（菟上遺跡／伊坂町）。菟上遺跡では80棟を超える竪穴住居や棟持柱を用いた特別な建物が見つかりました。西隣の山からは銅鐸も見つかっていて、朝明川流域における中心的なムラだったと考えられています。

後期に入るとムラの数は飛躍的に多くなり規模も大きくなります。山奥遺跡（大字羽津・大矢知町）はその代表的な遺跡で、100棟を超える竪穴住居が見つっています。



円形の竪穴住居（大谷遺跡）



壺（大谷遺跡）



鉢（永井遺跡）



伊坂銅鐸（県指定文化財）



菟上遺跡（左）と出土した各種の磨製石斧（上）



四角形の竪穴住居がひしめく山奥遺跡

## 竪穴住居の形の変遷

縄文時代から地域によっては平安時代まで続く住居形態。

円形・四角形が一般的。

四日市市の場合は、前期は円形で中期から徐々に四角形へと移り変わっていったようだ。



円形の竪穴住居（上野遺跡）

やよいどき もくせい どうぐ  
弥生土器と木製の道具



鎌 鎌 杓子 弓

(久留倍遺跡出土)

土器・石器以外に、木製の農具や容器なども多く作られました。鎌は材質の堅いカシ、杓子はコナラというように、用途に応じていろいろな木材を使い分けています。

※ 杓子…汁物の料理や水、酒などをすくう用具

弥生土器は縄文土器以上にいろいろな器種が作られ、用途に応じて使い分けられていたようです。貯蔵には壺、煮炊きには甕、盛り付けには高杯や鉢といった具合です。

こふんじだい  
古墳時代

古墳時代になると古墳が全国各地に造られます。中期（4～5世紀頃）は大王墓の時代で大型の古墳が造られますが、後期（6世紀以降）になるとムラの有力者も小型の古墳を造るようになります。

四日市市内では200基以上の古墳が確認されていて、その多くは、朝明川や内部川流域に分布しています。また、後期の小型の円墳が多いのが特徴です。

はくつ おも こふん  
発掘された主な古墳

ちやうすやまこふんぐん  
茶臼山古墳群（大字日永）

市内唯一の形象埴輪（人物埴輪・家形埴輪・馬形埴輪）が出土（中期）



くじでこふんぐん  
公事出古墳群（西村町）

円墳2基、方墳4基からなる古墳群（後期）



3号石室

**御池古墳群 (西坂部町)**

円墳 10 基からなる古墳群。装飾須恵器や三足壺など特異な副葬品が出土しており、市内でも有力な集団の古墳と考えられる。(後期)

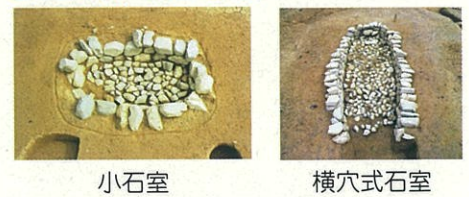


**和田ヶ平古墳群 (山田町)**

金環・勾玉・ガラスといった装飾品が見つかった。(後期)



**西野古墳群 (南小松町) (後期)**



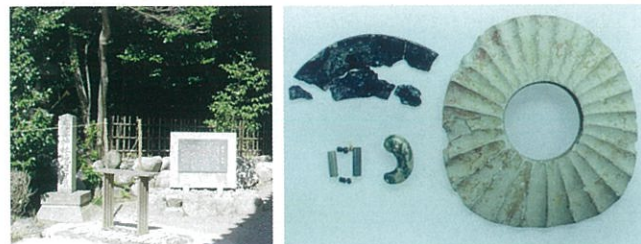
**北小松古墳群 (北小松町) (後期)**



**現存する主な古墳**

**志氏神社古墳 (大宮町)**

古墳前期の終わりごろ (4 世紀後半) に築かれたとされる市内最古で唯一の前方後円墳。(市指定史跡・出土品は市指定有形文化財)



**八幡古墳 (平津町)**

八幡神社境内に横穴式石室が残り、内部を見ることが出来る。(許可なく入ることはできません)



**広古墳群 (大鐘町)**

市内の古墳の大半が円墳であるなか、方墳 4 基を主体とする広古墳群 (他に円墳 3 基) は特異な存在である。(県指定史跡)



**門ノ上古墳群 (小牧町)**

6 基の円墳からなり、うち 1 基は「王塚」と称される。



**貝野古墳 (坂部ヶ丘三丁目)**

坂部ヶ丘団地のなかに保存されている直径 15 メートル、高さ 2 メートルの円墳。



**若宮古墳群 (小牧町)**

明治 15 年に発掘調査が行われ、横穴式石室を確認。その後、元に戻され、現在「殖栗連墓 (えぐりむらじのはか)」として遺されている。



はじき すえき  
**土師器と須恵器**

こふんじだい ひとびと ちょうり ちよぞう もち とき はじき すえき  
古墳時代の人々が調理や貯蔵などに用いた土器には土師器と須恵器とがある。



**土師器** はじき やよいどき けいふ せきかっしょく  
土師器は弥生土器の系譜につながる赤褐色の素焼きの土器である。

**須恵器** すえき  
須恵器は、5世紀に朝鮮半島から製法が伝えられたことによって生産が始まり、その後平安時代まで使われた青灰色をした硬質の焼き物である。



なら へいあんじだい  
**奈良・平安時代**

じいんこんりゅう  
**寺院建立**

6世紀半ばごろに伝来した仏教は、次第に地方豪族の間に広まっていきました。それに伴って古墳に替わって寺院が造られるようになりまし。四日市市でも、奈良時代に智積廃寺(智積町)が建立されました。この智積廃寺は金堂・講堂・僧坊が一直線に並んだ伽藍配置だったことが分かっています。



智積廃寺跡(智積町)  
出土軒丸瓦

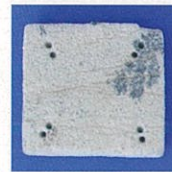


**やく しょ**  
飛鳥時代から奈良時代になると、地方を国・郡・郷(里)に分け、土地と人を国家が直接支配する体制が整えられていきました。当時の市域は伊勢国に属し、朝明郡と三重郡に分けられていました。発掘調査では、郡や郷の役所に関連する遺跡が見つかっています。なかでも、朝明郡の役所(郡衙)跡が久留倍遺跡(大矢知町)で見つかり、全国的にも貴重な発見となっています。



三重郡柴田郷の存在を示す「柴田郷長右」と書かれた木簡(宮の西遺跡/中川原一丁目)

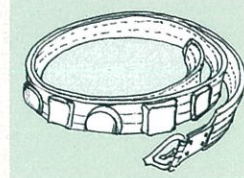
役人が正装時に着用したベルトを飾った石帯



宮の西遺跡



落河原遺跡(西坂部町)



石帯のイメージ

祭祀に使われたもの



宮の西遺跡



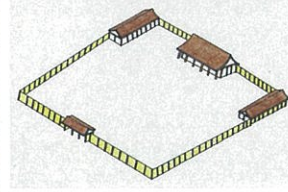
大膳寺跡(南いかるが町)

おはらいなどに使われた齋串(左)  
雨乞いなどで使われた土馬(右)

くるべかんがいせき  
**国指定史跡 久留倍官衙遺跡 (古代朝明郡の役所跡) (大矢知町)**



官衙関係の出土遺物



政庁想像図  
 東を向いて建てられているのが特徴です。

かまくら むろまちじだい  
**鎌倉・室町時代**  
 よっかいちし しろあと  
**四日市市の城跡**



城跡といっても、一般にイメージされる石垣を積み立派な天守閣をそなえた近世のお城ではありません。「中世城館」とよばれる鎌倉時代～戦国時代の在地の武士の居城や戦時の砦のことです。土塁と堀に囲まれた郭を持ち、その多くは小高い丘陵等に造られました。戦国時代の四日市は「北勢四十八家」と称されるほど在地の武士が割拠していたため、現在でも数多く（約50箇所）の中世城館が知られています。

土塁（平尾城跡／平尾町）

いま のご おも ちゅうせいじょうかん  
**今に残る主な中世城館**



羽津城跡（羽津城山公園のなかに土塁が残る。市指定史跡）

采女城跡（内部川左岸の泊丘陵南端にあり、土塁・堀・井戸などがよく保存されている。）



坂部城跡（「三重団地」の西の端に「城山公園」として整備されている。）



茂福城跡（主郭の北西隅にあると推定される場所に碑が建てられている。市指定史跡）



浜田城跡（鶴の森公園内に土塁が残る。公園の池は堀跡が。市指定史跡）



はっくつ ちゅうせいじょうかん  
**発掘された中世城館**

あかほりじょうあと  
**赤堀城跡**  
 (城東町・城西町)



犬形土製品



すり鉢・すりこ木・箸・皿

将棋のこま



「飛車」

「桂馬」



間香札(茶や香をきき当てる時に用いた札)  
 左「嶋」  
 右「三」

ねずみ墨書土器



もちぶくじょうあと  
**茂福城跡**  
 (茂福町)



堀跡



羽釜



木槌

えどじだい  
**江戸時代**

げんざい ちゅうぶにししょうがっこう えどじだい ばくふ  
 現在の中部西小学校には、江戸時代に幕府の  
 だいがんしょ お けりあと ちようさ  
 代官所が置かれていました。その堀跡を調査し  
 たところ、当時のさまざまな生活用具がたくさん出土しました。これらの出土品により江戸時代の生活の一端を垣間見ることができます。



櫛



蓋



こま



下駄



刀の鍔



木製入歯



茶碗



雁首

しょうわ せんそうあと はっくつ  
**昭和の戦争跡の発掘**

よっかいちだいがんしょあと はっくつちようさ  
 四日市代官所跡の発掘調査の  
 ときに、よっかいちくうしゅう とき  
 ときに、四日市空襲の時のものと  
 おも と や かわら  
 思われる溶けたガラスや焼けた瓦  
 などが見つかりました。出土品の  
 ようす ぐうしゅう はげ  
 様子から空襲の激しさをうかがい  
 し  
 知ることができます。



ちようさご ぼぞん ふくげん いせき  
**調査後 保存・復元された遺跡**



こすぎおおたにこようあと  
**小杉大谷古窯跡 (小杉町)**  
 大谷台小学校の南の公園に窯跡が復元されている。



どうぐばやしこふん  
**道具林古墳 (小牧町)**  
 住宅地の中の公園に残されている。



ながいせき  
**永井遺跡 (尾平町)**  
 遺跡公園の一角に竪穴住居跡が埋め戻された。

# いせき ちょうさ しょうかい 遺跡調査の紹介

いせき ちょうさ げんち ばくつ ちょうさ ばくつ  
遺跡の調査は、現地での「発掘調査」と、発掘によって得られた  
いぶつ しりょう せいりきぎょう ちえ  
遺物などの資料をまとめる「整理作業」とに分けることができます。

表土を剥いて遺構を見つける



見つけた遺構を掘る



記録する



写真撮影



遺構を図化する

遺物を整理する



復元

発掘成果を公開する



発掘展

現地説明会

発掘調査報告書の作成



資料の保管と活用

発掘調査の見学などは四日市市教育委員会社会教育・文化財課（四日市市役所9階）までお申込みください。

Tel 059-354-8240